

ページ	章	訂正箇所	誤	正	紙版	電子版
67	3章	図表3.3のキャプション2行目	間接費用(通勤時間)	間接費用(通勤費用)	2刷(2023.3.17) 以降訂正済み	訂正済み
95～96	4章	本文18行目	・財の価格が変化しても、需要曲線がシフトしないときには、その価格の変化は 需要曲線に沿った移動 を引き起こす。需要曲線に沿った移動は、図表4.4(b)に描かれている。	・財の価格が変化し、需要曲線がシフトしていないとき、その価格の変化による 需要量の変化は需要曲線に沿った移動 である。	3刷(2025.2.12) 以降訂正済み	訂正済み
95	4章	図表4.4	一方で、財の価格だけが 変化する場合には、(b)に示されるとおり需要曲線はシフトせず、 需要曲線に沿って移動する。	一方で、財の価格 の変化だけが起こるときには、需要曲線はシフトしていないので、(b)に示されるとおり、 需要量は需要曲線に沿って移動する。	3刷(2025.2.12) 以降訂正済み	訂正済み
96 116 567	4章	脚注／まとめ17行目／用語解説	●財の価格が変化しても、需要曲線がシフトしないときには、その価格の変化は 需要曲線に沿った移動 (movement along the demand curve)を引き起こす。	●財の価格が変化し、需要曲線がシフトしていないとき、その価格の変化による 需要量の変化は需要曲線に沿った移動 (movement along the demand curve)である。	3刷(2025.2.12) 以降訂正済み	訂正済み
97 106	4章	囲み9行目／囲み8行目	財の 価格自体 の変化	財 自体の価格 の変化	3刷(2025.2.12) 以降訂正済み	訂正済み
105	4章	本文10行目	・財の価格が変化しても、供給曲線がシフトしないときには、その価格の変化は 供給曲線に沿った移動 を引き起こす。供給曲線に沿った移動は、図表4.9(b)に描かれている。	・財の価格が変化し、供給曲線がシフトしていないとき、その価格の変化による 供給量の変化は供給曲線に沿った移動 である。	3刷(2025.2.12) 以降訂正済み	訂正済み
105	4章	図表4.9	一方で、財の価格だけが 変化する場合には、(b)に示されるとおり供給曲線はシフトせず、 供給曲線に沿って移動する。	一方で、財の価格 の変化だけが起こるときには、供給曲線はシフトしていないので、(b)に示されるとおり供給量は供給曲線に沿って移動する。	3刷(2025.2.12) 以降訂正済み	訂正済み
105 117 562	4章	脚注／まとめ4行目／用語解説	●財の価格が変化しても、供給曲線がシフトしないときには、その価格の変化は 供給曲線に沿った移動 (movement along the supply curve)を引き起こす。	●財の価格が変化し、供給曲線がシフトしていないとき、その価格の変化による 供給量の変化は供給曲線に沿った移動 (movement along the supply curve)である。	3刷(2025.2.12) 以降訂正済み	訂正済み
110	4章	本文23行目	市場を 分析するためには、	市場の 分析には、	3刷(2025.2.12) 以降訂正済み	訂正済み
110	4章	本文28行目	図表4.14を見れば、石油価格の下落は 需要曲線の左へのシフト に引き起こされたものであることがわかる。	図表4.14を見れば、石油価格の下落は 需要曲線の左へのシフトによって 引き起こされたものであることがわかる。	3刷(2025.2.12) 以降訂正済み	訂正済み
191	6章	図表6.14(b)	平均総費用曲線	長期 平均総費用曲線	2刷(2023.3.17) 以降訂正済み	訂正済み

364	10章 補論	本文16行目数式	$y = \frac{Y}{L} = A \times K^{1/3} \times H^{2/3} \times \frac{1}{L^{1/3} \times L^{2/3}}$	$y = \frac{Y}{L} = A \times K^{1/3} \times H^{2/3} \times \frac{1}{L^{1/3} \times L^{2/3}}$ (Hはイタリック)	3刷(2025.2.12) 以降訂正済み	訂正済み
575	索引	価格統制	30	230	2刷(2023.3.17) 以降訂正済み	訂正済み
580	著者紹介	13行目	数々の賞を受賞している。 また2005年には、40歳以下の優秀な若手経済学者を対象にアメリカ経済学会(AEA)から2年に一度贈られるジョン・ベイツ・クラーク賞、2012年には経済学への影響力があった研究に対して2年に一度贈られるアーウィン・プレイン・ネンマーズ経済学賞を授与されている。	数々の賞を受賞している。また2005年には40歳以下の優秀な若手経済学者を対象にアメリカ経済学会(AEA)から2年に一度贈られるジョン・ベイツ・クラーク賞、2012年には経済学への影響力があった研究に対して2年に一度贈られるアーウィン・プレイン・ネンマーズ経済学賞、2024年には「社会制度が国家の繁栄に与える影響の研究」によりノーベル経済学賞を授与された。	3刷(2025.2.12) 以降訂正済み	訂正済み